

## 「住みよい地球」全国小学生作文コンクール 2021

小学校高学年の部 最優秀賞

未来の海を守るために

鹿児島県知名町立下平川小学校 5年 竿 はな

「あっ。またできてる。こっちに来るね。」

わたしが住んでいる沖永良部島には、毎年多くの台風が近づき通過していく。地球の温暖化で、台風がたくさんできるのだと父が教えてくれた。

わたしには、台風が来ると心配なことがある。それは、台風によって浜辺に打ち上げられる大量の漂着ごみだ。わたしは大好きな海を守りたくて、毎日漂着ごみを拾っている。姉妹、弟といっしょに、浜辺を守るための活動を始めて、今年で五年目になる。わたしが毎日浜辺をきれいにしても、台風が来るとたった一日で美しい浜辺はごみで埋め尽くされる。カニやヤドカリたちは、ごみの下じきだ。拾っても拾っても決してごみはなくなる。それどころか、台風シーズンには次から次に台風がやって来てごみを残していく。わたしは悲しくて悔しくて、何度もごみ拾いを辞めようと思った。だが、そのたびに私は家族と話し合い、辛い気持ちを乗り越えてきた。どうせまた台風はやってくる。それなら「心配してもしょうがない。わたしだって、できることを続けるぞ」と今は思っている。

わたしには、もう一つ心配なことがある。「マイクロプラスチック」による海の汚染だ。この言葉は海を守る活動する中で、参加した学習会で知った言葉だ。父に聞いてみると、「人間が使ったレジ袋やペットボトルが川や海に流れ出し、波や紫外線でこなごなになる。5ミリメートルより小さくなったものをマイクロプラスチックと言うんだよ。」と教えてくれた。わたしが特に驚いたのは、マイクロプラスチックはずっと自然の中に残り、何年たっても無くならないことだ。魚やカメ、鳥が食べてしまうと、死んでしまう危険がある。大変なことだ。

そこで、私たちは浜辺の漂着ごみといっしょに、マイクロプラスチックを集めだした。始めは小さくてうまく探せなかったが、姉に教えてもらいながら、今では容器にたくさん集められるようになった。わたしは、プラスチックを悪者だと思いたくない。なぜならプラスチックは離島で暮らすわたしたちの生活を便利にしてくれるからだ。大切なのはむだを減らしもう一度役に立つ「何か」にすることだ。さっそく集めたマイクロプラスチックは、むだにせず多くの人に知ってもらうために、教材として紹介させてもらっている。

わたしは家庭科の時間に、コースターを作った。コースターには糸で「SDGs」とぬってある。この言葉に、これからも豊かな海を守るために、活動をがんばりたい気持ち

ちを込めた。わたしの大好きな海が、世界の海へと広がりつながっているように、わたしの思いが世界へと広がり、つながっていけばうれしい。これからも、わたしは自分にできることをやり続ける。そして他にできることはないかを探していく。未来の海を守るために。